

# お伊勢さん菓子博 2017 における「障害者差別解消法」

特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター  
事務局長 野口 あゆみ

## 【菓子博概要】(菓子博 HP 抜粋)

お菓子の博覧会は、お菓子の祭典としてほぼ4年に1度、全国の各地を回って開催されています。その地域のお菓子屋さんがつくっている菓子工業組合が主催しているものですが、地方自治体もバックアップする大きなイベントとなっています。

お菓子の博覧会の始まりは古く、明治44年の第1回帝国菓子飴大品評会にさかのぼります。戦争による一時中断はありましたが、全国のお菓子屋さんの熱意で復活し、名称を全国菓子大博覧会と変えて、1世紀にわたり、これまで26回の開催を重ねてきました。

会場では、全国よりお菓子が集められ展示・即売され、また菓匠により作られた工芸菓子が披露されます。優秀な作品には皇族による名誉総裁賞、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞などが授与されますが、全国菓子大博覧会での受賞は菓子業界の中でも最高の栄誉とされ、賞をもらうために全国のお菓子屋さんは日々腕を磨いています。皆さんは、街のお菓子屋さんの店先によく賞状が飾られているのを見たことはありませんか。

第27回全国菓子大博覧会が三重県伊勢市で2017年4月21日(金)から5月14日(日)まで開催されます。

## 【お伊勢さん菓子博概要】(菓子博 HP 抜粋)

「全国菓子大博覧会」はお菓子の歴史と文化を後世に伝えるとともに、菓子業界、関連産業の振興と地域の活性化に役立てるため、ほぼ4年に1度開催されてきました。今回で27回目の開催となり、三重では初めてとなります。1911年(明治44年)に東京で「第1回帝国菓子飴大品評会」として始まり、東海エリアでは1977年静岡以来の40年ぶりの開催となる「第27回全国菓子大博覧会・三重」にご期待ください。

### ■開催方針

- ①伊勢神宮の門前町として育んできた「おもてなし」を体感できる博覧会とする。
- ②三重県の菓子業界のポテンシャルの高さを感じられる博覧会とする。
- ③お菓子文化を通じて県内外の方々、世界各国の方々との交流を図ると共に日本の菓子文化を世界に発信する博覧会とする。
- ④次代を担う子どもたちが「夢」・「希望」、そして「感動」を感じられる博覧会とする。
- ⑤菓子文化及び技術の継承・発展を図ると共にお菓子を通じて「食」に対する感謝を体感できる博覧会とする。

- ⑥菓子のみならず、三重の「海の幸」・「山の幸」を食することを通して広く三重県の食文化を体感できる博覧会とする。
- ⑦食に関する諸法規を遵守し、食品衛生の向上を図る博覧会とする。
- ⑧バリアフリーに十分に配慮した博覧会とする。

## ■期間

2017年4月21日（金）～5月14日（日）

## ■会場

三重県営サンアリーナ及びその周辺

## 【お伊勢さん菓子博 2017 における障害者差別解消法対応とながれ】

1. 4年前の広島で開催された「第26回全国菓子博覧会・広島」会場にて電動車いすの入場を拒否したことが問題となる。障害者団体が何度も申し立てをするが、納得する対応がなかなか得られなかった。
2. 伊勢で開催される菓子の開催方針の中に「バリアフリーに十分に配慮した博覧会とする。」を追加し、2014年秋頃に「伊勢志摩バリアフリースターセンター」に協力要請がかかった。
3. 開催までの期間、菓子博会場におけるバリアフリー事案を菓子博事務局と相談しながら進める。（P4以降の【お伊勢さん菓子博における伊勢志摩バリアフリースターセンターの役割】参照）
4. 2016年4月障害者差別解消法施行
5. 開会直前2017年4月19日「三重県に県に障害者差別解消条例をつくる会」より、お伊勢さん菓子博の交通アクセスについて改善の申し入れ書を県はじめ各所に提出され、翌日の新聞各社が掲載。  
（新聞記事参照 資料1—1）
6. 4月27日菓子博事務局にて「三重県に県に障害者差別解消条例をつくる会」が来訪し、障害者のアクセスへの配慮を求める申し入れに関するヒアリングを行う。  
（新聞記事参照 資料1—2）  
<条例をつくる会の意見と要望>
  - 階段のみ車いす対応のトイレもない、バリアフリーでない駅（近鉄五十鈴川駅で使用するチェアメイト使用はバリアフリーアクセスにならない）が、公共交通機関「最寄駅⇄菓子博会場」のメインアクセスになることへの意見。
  - 平日は宇治山田駅からの低床バスがあるが、土日祝日は（五十鈴川駅を利用しなければ）会場へいけない。

①伊勢市内の駅から内宮経由にて会場（低床バス）

②鳥羽駅から CAN ばすにて会場（低床バス）

そのための、土日祝日でも宇治山田駅からの低床バス運行の要望

●おもいやりセンターの障害者サポートは事前予約ではなく、いつでも利用できるべきでは、  
など

<菓子博事務局側回答>

○伊勢市駅、宇治山田駅に菓子博へ向かうお客様（大人数）が滞留する空間がない。五十鈴川駅をメインアクセスにしたのはやむを得なかった。

○ゴールデンウィークを挟んだ期間中、伊勢市内～菓子博会場へ向かう渋滞は免れない。また、毎年この時期は菓子博開催有無にかかわらず、宇治山田発の CAN バスは運休。

○当初菓子博開催にあたり、菓子博事務局として三重交通にも上記を改善する要望は出していた。

○伊勢志摩バリアフリーツアーセンターが上記のアクセス理由を事前に把握していたことにより、障害者（特に車いす使用者）ルート（鳥羽駅利用）を提案。（問合せ時にはこれらの説明必須）

○サポートの事前予約は、あくまでも必須ではなく、ボランティア人数や対応できるサポート隊態勢にもよるので、事前予約をいってほしいという運営側の立場。突然依頼の場合は対応できるが、待っていただくことなる。スムーズに対応するための予約である。

○「三重県に県に障害者差別解消条例をつくる会」の要望を真摯に受け止め、宇治山田駅からの小型バスを含めたルート検討する。

——以下菓子博会場アクセスに関する伊勢志摩バリアフリーツアーセンターHP の記載——

### 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターが近鉄鳥羽駅をおすすめする理由

1. 鳥羽駅発・鳥羽駅終着の電車が比較的多く、ゆっくり乗降できる。
2. 鳥羽市内から菓子博会場へ向かう車は、伊勢市内（伊勢市駅・宇治山田駅・五十鈴川駅）から向かう車より少ないので、道路の混雑度が低い。特に、伊勢市駅・宇治山田駅から来場の場合は、外宮～内宮間を繋ぐ道路を通るため、会場まで渋滞は必須。
3. CANばすは、鳥羽バスセンターのひとつ手前の鳥羽水族館が発なので、座席に座れる確率が高い。
4. 鳥羽駅周辺には、行きのバスの待ち時間、帰りの電車の待ち時間にお買い物できるお土産物屋（鳥羽1番街など）やコンビニがある（五十鈴川駅構内にはコンビニはありません）。また、時間に余裕があれば、鳥羽駅から徒歩圏内の鳥羽三大観光施設「鳥羽水族館」「ミキモト真珠島」「鳥羽湾めぐりとイルカ島」も楽しめるかも？
5. 鳥羽駅の多目的トイレはオストメイト・ユニバーサルシート付のトイレなので、重度の障害の方や、ユニバーサルシートが必要な方にも安心。

**注意！おすすめしているのは「近鉄鳥羽駅」のご利用です。「JR 鳥羽駅」ではありません。**

「JR 鳥羽駅」から鳥羽バスセンターへは、途中に 38 段の階段があります。階段を避ける場合、駅から約 350 メートル先の交差点を渡ってから、再度駅方面へ引き返す必要があります。

6. 結果 5月3日～会期中の土日祝日、三重交通より一時間に一本低床バスを運行。五十鈴川駅に仮設の車いす対応トイレ設置。

(新聞記事参照 資料1-3)

7. 5月9日「障がい者の自立と政治参加をすすめるネットワークの会」視察。

【視察者】さいたま市議、名古屋市議、大牟田市議

(新聞記事参照 資料1-4)

## 【お伊勢さん菓子博における伊勢志摩バリアフリースーツアースターの役割】

### 1. 会場設計に関する技術的支援

(1) 会場設計に関する打ち合わせ、アドバイス

(2) 障害者、高齢者に関する会場設営追加

① 多目的室内にカームダウンルーム制作、設営



### 2. 会場運営のマニュアル策定等に関する技術的支援

(1) 会場運営のマニュアル策定等に関する打ち合わせ、アドバイス

(2) 会場内看板、表示物の作成

- ・ タイプ別の車いす対応トイレ情報作成



- ・ いせ舞台観客席 車いす専用観覧エリア表示作成



- ・ 手話可能ボランティア在籍を示す表示作成、掲示



- ・ 多目的室内各種表示作成、掲示
- ・ 五十鈴川駅前車いす対応仮設トイレの案内表示作成、掲示

### 3. 情報発信に関する技術的支援

- (1) 菓子博 HP 内のバリアフリー関連の情報、文言アドバイス
- (2) 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターWeb サイト内に、菓子博バリアフリー情報専用ページ作成
- (3) 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターフェイスブックによる情報発信
- (4) 視覚障害者用飲食店点字メニュー作成
- (5) 視覚障害者用飲食店メニュー音声情報（デイジー）作成
- (6) 視覚障害者用おすすめポイント（「触れる」「香り」「感じる」情報）まとめ作成
- (7) 公共交通機関でのバリアフリーアクセス情報まとめ作成
- (8) 平成 28 年 8 月お盆に鳥羽駅前で開催した「駅ボラ」にて、菓子博の PR 宣伝に協力

### 4. 会場マップの作成に関する技術的支援

- (1) 菓子博会場マップに関するバリアフリー視点でのアドバイス
- (2) 視覚障害者用会場触地図作成

## 5. 現場スタッフ、ボランティア等への研修を実施

- (1) ボランティア研修会開催についての打ち合わせ
- (2) ボランティアマニュアル作成
- (3) 鳥羽高等学校ボランティア研修会開催 全対象者／26名
- (4) ボランティア研修会開催 全対象者／593名
- (5) 現場スタッフへのバリアフリー研修実施

## 6. 障害者団体等の打ち合わせに参加

- (1) 開催前調整

開催までに間、障がい当事者個人、団体の方々に、菓子博のバリアフリーについてのヒアリングを行う（同時に、菓子博事務局もおこなっている）  
事案が出るたびに、当事者にヒアリングを行う。

- (2) 開催中調整

- ①平成 29 年 4 月 27 日（木） 場所：お伊勢さん菓子博 2017 会場内  
「三重県に県に障害者差別解消条例をつくる会」からの、障害者のアクセスへの配慮を求める申し入れ。
- ②平成 29 年 5 月 9 日（火） 場所：お伊勢さん菓子博 2017 会場内  
「障がい者の自立と政治参加をすすめるネットワークの会」視察。

## 7. 「おもいやりセンター」のセンター長等を派遣

- (1) おもいやりセンター運営 2017 年 4 月 21 日（金）～5 月 14 日（日）
- (2) おもいやりセンター隣接の車いす貸出し所「南貸出し所」の運営協力
- (3) おもいやり駐車場運営管理

## 【まとめ】

4 年前の広島の子博会場の電動車いす拒否の問題と、2016 年度より施行された「障害者差別解消法」から、確実に今回の菓子博は全国の障害者にとって注目される存在であった。その回が、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターのある伊勢の会場であったことは幸いといえるかもしれない。

開催までに 2 年（事務局が立ち上がり）ほど会ったとは言え、その間、「伊勢志摩サミット開催」が決定し、開催地（菓子博会場がメディアセンター）が同じということもあり、予定（スケジュール）変更が余儀なくされたことにより、会場設営や内容の確定がかなり遅れ、ともにバリアフリーに関することも先走ることでもできず、なかなか詳細に踏み込むことができなかつたことは苦労した。

しかしながら、菓子博事務局として、バリアフリーツアーセンターの要望を会期前、会期中ともに、聞く耳を持ち、課題改善のための話し合いを随分持っていただいた。

印象的だったのは、5月9日に「障がい者の自立と政治参加をすすめるネットワークの会」の来訪時。（交通アクセスの問題を確認含む）この団体は、広島菓子博の電動車いす拒否に対しても要望書を提出したそうだが、きちんとした席を設けるでもなく、事務局長や実行委員長も結局会えずじまい。話を取り合ってくれず、2時間立ち話で終わったそう。

しかし、今回のお伊勢さん菓子博では、実行委員長はじめ事務局長がきちんと「話を聞く席」を設け、耳を傾けてくれたこと。また、その課題をきちんと解決したことへの評価がとても高く、とても感謝していると涙ながらに述べてくれた。

会場内においても、おもいやり駐車場や付随する停車場や、車いす対応トイレの別種類のトイレの場所の掲示、カームダウンルームや補助犬トイレの設置など、車いす使用者だけでない多様な障害者たちを広く受け入れる体制は、今後のイベントにも大いに参考になりそうだと有意義な視察となったよう。

障害者差別解消法はまだまだこれから進化する法律であると考えられます。そのためには、このようないくつもの事例を作りながら、「障害当事者の話をきく」「一緒になって“課題解決を”を考える」ことが大切であると感じた。

#### 【これをしてあげればよかったと思うこと】

- ①ゴールでウィークの伊勢市内は混雑する
- ②バスを待つたくさん人たちの滞留場所が伊勢市駅と宇治山田駅にはない
- ③会場は鳥羽駅から近い

などということは、地元であるから認識していたが、地元でない人たちにとっては、理解しがたいことであつたと思う。そのため、障害当事者を巻き込みながら、マスコミを交えての実証実験をしてあげれば、今回の問題は事前にクリアしていただろうと考える。

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターとして、まだまだやれることはあつたと思うが、開催中、「おもいやりセンターを設置した」こと「たくさん障害者、高齢者が訪れた」ことは、このようなイベント会場に障害者、高齢者の需要があることを大会事務局はじめ、一般来訪者の方たちにも知っていただくことができたことは、バリアフリー観光を推奨していくこと、三重県内で行われる「とこわか国体」（国民体育大会、障害者スポーツ大会）開催に関しても、飛躍になり、今後に生かせるイベントであつたといえる。

#### 参考：

- ①会期中のおもいやりセンター問合せ総数 469件（うちメール8件）
  - ②会期前～会期中伊勢志摩バリアフリーツアーセンター問合せ件数 71件（うちメール5件）
- 合計540件

2017年(平成29年)4月20日(木)朝日新聞 掲載

伊勢・菓子博への公共交通アクセス 車いす利用者「休日は遠回り」

35 社会 13版 ● 2017年(平成29年)4月20日

## 伊勢・菓子博への公共交通アクセス

# 車いす利用者 「休日は遠回り」

三重県伊勢市で開催する全国菓子大博覧会への公共交通アクセスについて、障害者団体が19日、県などに改善を求める申入書を出し、記者会見した。休日に公共交通機関を使うと、平日よりも大きく迂回する必要があるという。

各地の和洋菓子が集まる全国菓子大博覧会はほぼ4年に1度、回り持ちで開催されている。今回は三重県

や菓子工業組合、商工会などをつくる実行委員会が主催。県営サンアリーナをメイン会場に21日から5月14日まで開かれる。60万人の入場者を見込む実行委員会は、公共交通機関での来場を呼び掛けている。

申し入れをした障害者団体は、「三重県に障害者差別解消条例をつくる会」によると、車いす利用者にとって、平日と土日祝日は会場へのアクセス手段が大きく変わるといふ。

平日はバリアフリー化された伊勢市駅、近鉄の宇治山田、鳥羽の各駅で低床バスに乗り換える。だが、休日は鳥羽発しかバスが運行されず、迂回が必要だといふ。例えば、車いす利用者が名古屋方面から訪れると、宇治山田駅から4駅先の鳥羽駅で降り、低床バスに乗るか、伊勢市駅から伊勢神宮経由で低床バスを乗り換えるという。

実行委員によると、乗り換え時間を省けば、鳥羽駅経由でも所要時間は約40分で平日とほぼ同じ。だが、つるまの会(代表理事は)

「乗り換えは少ないほうがいい。乗車に時間がかかり、他の乗客を待たせていることに気をもむ」と話す。24日間の開催期間中、土日祝日は計11日ある。

実行委員の水口良之事務局長は取材に、「障害者に迷惑をかけていることは承知している。道路の混雑でバスの定時運行を確保できない可能性があり、やむを得なかったと説明した。車いすを利用しない人の場合、近鉄五十鈴川駅かJR二見浦駅から10〜35分間隔で出る直通バスがある。

マイカーで来た、歩行が困難な障害者や妊産婦らを対象に、入り口に近い「おもしろい駐車場」(有料)も用意されている。

広島市であった2013年の前回菓子博では、実行委が「急発進すると危険」などとして電動車いす利用者の入場を拒否。抗議を受けて撤回した。

(保坂知寛)

DPI(障害者インターナショナル) 日本会議副議長で内閣府障害者施策アドバイザーの尾上浩二さんの話。直通バスが利用できる人がいる一方で、車いすの人に遠回りを強いるのは配慮の不足等だ。2020年の東京パラリンピックのアクセスに関する指針では「すべての人が同じ水準のサービスを受けられること」が基本原則の一つで、国際の考え方はそこまで進んでいる。広島開催の反省を踏まえ、計画段階から障害者の意見を聞いていけば、このようなルート設定にはならなかったという。

2017年（平成29年）4月20日（木）中日新聞 掲載

障害者も来場しやすく 市民団体実行委などに申し入れ

(第3種郵便物認可)

# 障害者も来場しやすく

## 市民団体 実行委などに申し入れ

全国菓子大博覧会・三重（お伊勢さん菓子博二〇一七）の開幕を二十一日に控え、市民団体「県に障害者差別解消条例をつくる会」は十九日、障害者のアクセスへの配慮を求める申し入れ書を、実行委などに送った。

（大山弘）



申し入れ書では、車いす利用者のために、エレベーターが設置されている宇治山田駅からシャトルバスを発着

させること、会場内で障害者が受けられるサービス内容をホームページなどに明記し、スムーズにサポートを受けられる体制をつくることなどを求めている。

つくる会によると、菓子博実行委は近鉄五十鈴川駅とJR二見浦駅からバスを使っ

来場を推奨しているが、両駅にはエレベーターがなく、車いすを



菓子博での配慮を求めて会見した松田さん（左）と、つくる会事務局の杉田宏さん（県庁で

使う障害者には、負担が大きい。

菓子博会場には障害者をサポートする「おもいやりセンター」が設置される予定だが、利用には事前予約が必要。しかし、連絡先がすぐに分からない上、その根拠も示されていないという。

つくる会の松田慎二代表が会見し、「菓子博実行委と対立したいわけではない。協力し合って、みんながアクセスしやすいイベントになってほしい」と訴えた。

お伊勢さん菓子博は、伊勢市の県営サンアリーナを主会場に、五月十四日まで開かれる。

2017年（平成29年）4月28日（金）伊勢新聞 掲載

## 菓子博臨時バス検討

### 事務局 障害者団体の要請受け

# 菓子博臨時バス検討

## 事務局 障害者団体の要請受け



会場へのシャトルバスの運行体制について話し合う松田さん（左端）と杉田さん（中央）、濱田委員長（右端）ら。伊勢市朝熊町で

【伊勢】バリアフリー設備が整った近鉄宇治山田駅から伊勢さん菓子博の会場（伊勢市朝熊町）へ向かう直行のシャトルバスの発着を求めている障害者支援団体と菓子博事務局側の協議が二十七日、会場の県営サンアリーナであった。事

【伊勢】バリアフリー設備が整った近鉄宇治山田駅から伊勢さん菓子博の会場（伊勢市朝熊町）へ向かう直行のシャトルバスの発着を求めている障害者支援団体と菓子博事務局側の協議が二十七日、会場の県営サンアリーナであった。事務局は同駅から障害者向け臨時バスを出せないか、三重交通（津市）に打診する方向で検討していると団体側に伝えた。

「頂いた意見は真摯に受け止め検討したい」と語り、障害者を対象とした臨時バスを出せないか三重交通に打診する旨を松田代表らに伝えた。対策の結果は後日、公表する。

「ターがない上、障害者が利用しやすい多目的トイレがないことなどから、バスの運行体制は障害者への配慮が足りない」と主張している。改善の申し入れ書を事務局や鈴木英敏知事宛に出していた。

この日の協議には団体側から松田代表と事務局の杉田宏さん、事務局側は濱田典保実行委員長らが出席。松田さんは「なぜ、バリアフリー設備が整っていないのか理解に苦しむ」と述べた。

その上で濱田委員長は「頂いた意見は真摯に受け止め検討したい」と語り、障害者を対象とした臨時バスを出せないか三重交通に打診する旨を松田代表らに伝えた。対策の結果は後日、公表する。

事が出ている近鉄五十鈴川駅とJR二見浦駅にはエレベーターがない上、障害者が利用しやすい多目的トイレがないことなどから、バスの運行体制は障害者への配慮が足りない」と主張している。改善の申し入れ書を事務局や鈴木英敏知事宛に出していた。

この日の協議には団体側から松田代表と事務局の杉田宏さん、事務局側は濱田典保実行委員長らが出席。松田さんは「なぜ、バリアフリー設備が整っていないのか理解に苦しむ」と述べた。

その上で濱田委員長は「頂いた意見は真摯に受け止め検討したい」と語り、障害者を対象とした臨時バスを出せないか三重交通に打診する旨を松田代表らに伝えた。対策の結果は後日、公表する。

2017年（平成29年）5月1日（月）毎日新聞 掲載

三重交通 低床バス追加運行へ

3日以降 近鉄宇治山田駅を発着

**三重交通**

# 低床バス追加運行へ

3日以降  
**近鉄宇治山田駅を発着**



**お伊勢さん  
菓子博**

三重交通（津市）は、市、松田慎二代表）が伊勢市で開催中の「全国菓子大博覧会」（お伊勢さん菓子博）の会場と近隣の駅間で、車椅子での乗降に適した低床バスを3日以降に追加運行する方針を固めた。市民団体「三重県に障がい者差別解消条例をつくる会」（津

3日から閉幕の14日までのうち、半分の7日間を占める土日祝日に1日8往復させる予定。バスには車椅子2台分のスペースがある。

菓子博は伊勢市朝熊町の県営サンアリーナを主会場に開かれている。駅構内にエレベーターがある近隣の近鉄・JRの伊勢市駅と近鉄宇治山田駅から土日祝日に会場へのバスが運行されていないため、つくる会が改善を求めていた。

【井口慎太郎】

2017年（平成29年）5月10日（水）中日新聞 三重総合掲載

# お伊勢さん菓子博「バリアフリー細やか」

## 障害ある地方議員ら視察

# 「バリアフリー細やか」

## 障害ある地方議員ら視察

車いすの人が移動しやすい「バリアフリー」の取り組みを視察しようと、埼玉原や熊本県などの障害のある地方議員たちが九日、菓子博の会場を訪れた。議員たちは「バリアフリーの配慮がきめ細やかだ」と感心していた。

自立と政治参加をすすめるネットワークの七人。二〇一三年に広島市で開催された前回菓子博で、展示場の一部に電動車いすが入場できなかった問題があり、今回の菓子博にも関心を持ってきた。

この日は、来場希望者からバリアフリー関係の相談に乗る「おもいやりセンター」の取り組みを聞いた。センターを運営する野口あゆみさん（伊勢志摩バリアフリーツアーセンター事務局長）から、おもいやり駐車場の五十台分が連日満車になったと説明を受けた。

会場内も見て回り、視覚障害者に同行する補助犬のためのトイレや、人混みに慣れない自閉症の人が落ち着くための「カムフラージュルーム」が用意されていることを確認。歩行障害のため車いすで移動するさいたま市の伝田ひろみ市議は「トイレや駐車場などの施設面、付き添いに当たるスタッフの態勢とも



車いすの人が使うトイレの説明をする野口さん（左から3人目）

にきめ細かい。他の「いる」と話していた。津市の市民団体「県

に障害者差別解消条例をつくる会」の杉田宏さんも同行。車いすの人がエレベーターを利用できる近鉄宇治山田駅から菓子博会場への直通バスの運行を求めた問題で、三日から急きよ実現したことへの感謝を伝える礼状を菓子博実行委に提出した。

（大島康介）

### 情報ボックス

●仏教講座「座談のそ